

間伐材で大規模発電

毎日新聞 12(H24). 8. 8

バイオマス 国内最大1万キロワット

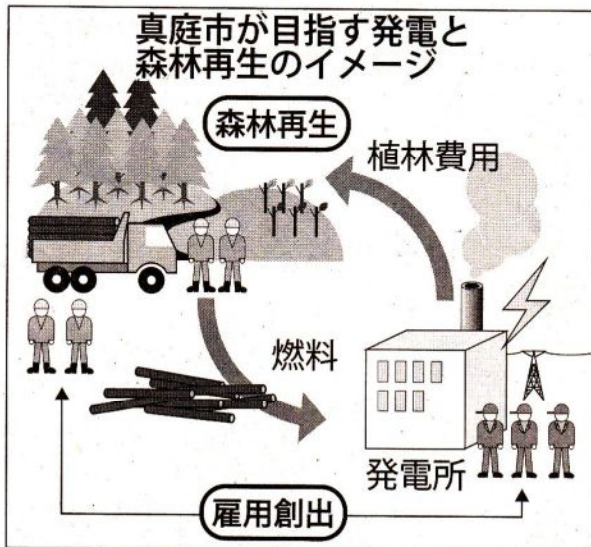
岡山県真庭市は、立木を間引く際にできる間伐材を燃料にした国内最大のバイオマス（生物由来の資源）発電所建設に乗り出す。官民共同で出資して発電会社を設立し、市内の一般世帯数を上回る2万戸を賄える電力（出力1万キロワット）を発電する。担い手の高齢化で手入れされない森林の荒廃は深刻だが、再生可能エネルギー固定価格買い取り制度が今年7月に始まったのを機に、まちぐるみで雇用創出と森林再生につなげる新しい林業モデルの確立に挑む。

【井上元宏】

同市は面積の7割が森林で製材業者約30社も集まる。00年代から製材くずを固めたペレットや間伐材を燃料に活用し、市内のエネルギー消費の1割を森林資源に頼るバイオマスタウンの先進地になった。

発電は、製材くずを原料とした固形燃料・ペレット製造国内最大手の地元集成材メーカー「銘建工業」が提案した。資本金は2億3億円とし、既に製材くずを燃料にした発電

岡山・真庭 林業復興、森林再生へ



所を持つ銘建工業が半分を、真庭市が2割を出資する方針だ。発電所は約40億円かけて市内の産業団地約1畝に建設する。真庭森林組合などから間伐材を購入し、高さ20メートル以上の巨大ボイラーで間伐材を砕いたチップを燃やし、400〜500度の蒸気でタービンを回し発電する。14年稼働を目標とする。発電に必要な間伐材は年間約15万トで、真庭森林組合の年間取り

木質バイオマス発電 植林によって、緑り返し生産でき、成長過程で二酸化炭素(CO₂)も吸収する資源循環型の発電とされる。同じ重さで比べると、石炭の3分の2のエネルギーしかなく発電効率は低い。再生可能エネルギー固定価格買い取り制度では、間伐材を山から運び出す手間と費用が考慮され、建築廃材が1キロワット時13・65円▽製材くず同25・2円に対し、間伐材は同33・6円。間伐材利用では、福島県に完成した出力5000キロワットの発電所が制度適用第1号。

材を購入し、高さ20メートル以上の巨大ボイラーで間伐材を砕いたチップを燃やし、400〜500度の蒸気でタービンを回し発電する。14年稼働を目標とする。発電に必要な間伐材は年間約15万トで、真庭森林組合の年間取り扱ひ量に匹敵。曲がり、サイズが小さいため大半は山に放置されていたが、木材並みの価格で買い取られる見通しとなり、林業関係者の新たな収益源になる。銘建工業の中島浩一郎社長は「森林作業者の雇用増や植林費用も生みだせる」と意義を説明する。木を燃やす発電は木質バイオマス発電と呼

ばれ、建築廃材や製材くずを処分する手段だった。間伐材の有効活用を目的に再生エネルギー買い取り制度で、建築廃材の2・5倍の売電価格を設定した。真庭市の井手紘一郎市長は「地域が一丸となって森林資源を原発の代替エネルギーに活用したい」と話している。